

平成15年度NSネットセミナーを開催

平成15年9月8日東京都千代田区の手町サンケイプラザ4階ホールにおいて、「原子力の安心とリスク・コミュニケーション」と題して平成15年度のNSネットセミナーを開催しました。

このセミナーには会員、会員の関連企業、NSネット関連団体及び一般の方から約180名の参加がありました。

NSネット牧野理事長の挨拶のあと、甲子園大学学長 木下富雄氏から「リスク・コミュニケーションの思想と技術」と題して、ご講演頂きました。

講演では、「リスクは、災害とか危険そのものではなく、その可能性のことであり、リスクを伝えようとするれば、そもそもそのリスクがどういう性質をもっているかとか、そのリスクを実際にどのように測ったのかとか、それをどう評価するのかとか、それを避けるためにはどうすればよいかということをお伝えしなければならない。」「リスクコミュニケーションは、このようなリスク情報とベネフィット情報、つまり一般国民の望む情報をフェアに伝えることである。」「また、リスクコミュニケーションは政府や企業から一般住民に対して行う一方向のコミュニケーションではなく、関係者間でかわされる双方向のコミュニケーションである。」「組織としての安全風土、安全規範というようなものがないと、リスク・コミュニケーションというものは成立しない。そして、このような風土の規範をつくり上げているのは、やはりトップマネジメントである。」などのお話がありました。



甲子園大学学長 木下富雄氏



パネルディスカッションの様子
(左から、中村氏、木下氏、大平氏、野村氏、松下氏)

引き続き行われたパネルディスカッションには、コーディネーターとして、科学ジャーナリストの中村政雄氏、パネラーとして、木下富雄氏のほか、聖路加国際病院精神科部長 大平 健氏、核燃料サイクル開発機構東海事業所副所長 野村茂雄氏、九州電力(株)常務取締役 松下清彦氏に参加いただきました。「原子力の安心とリスク・コミュニケーション」をテーマにディスカッションを行い、リスクを伝えることの必要性、送り手の役割、信頼を回復するための具体的方法などについて活発な議論が行われました。

パネルディスカッションにおける主なご意見は、

電力会社や原子力業界が一般の方に信頼されるためには、原子力事業に携わっている方々の人柄だとか日常の行動というものが安全性に重要な信頼回復のキーファクターになっている。

一番重要なテーマはお互いのステークホルダーの信頼性をどのように共有するかということに尽きる。

病院などで非常に気をつけているのは、自分たちのポリシーというのは言葉では表現する前に態度で、目に見える形で表現するということが基本。理解されなくても積み重ねが結局はサービスになる。

事業者にとってリスク・コミュニケーションのようリスクを含んだ情報開示、あるいはそれを住民と一緒に考えるということがもう不可欠な時代であるということはある程度認識してやっていくような姿勢を取っていかないとだめである。

「責任の所在」というのがキーワードではないかと思う。誰が判断したかということを確認に言う必要がある。

などがありました。



中村氏



大平氏



野村氏



松下氏



セミナーの様子

また、終了後のアンケートでは、

「日常の不断の努力」「率直かつ誠実な対応」がまず基本であることが再認識できた。

「技術」と「信頼」こそが、リスク・コミュニケーションの思想であり基本であることをあらためて確信し、思い知らされました。「信頼」が「理解」を得るための絶対条件と思います。

講演者は、本日のように「原子力の専門家でない人」のほうが良い。

立場で色々な考えがあり、よし悪しは別にして参考になった。今回のパネラーは個人的な考えも積極的に発言し非常に良かった。

NSネットの外向けの活動が余目に見えてこないのが、会員間だけでなく一般の方々への広報にも力を入れて欲しいと思う。

など、多数のご意見をいただきました。

皆さまからのNSネットの活動に関するご意見・ご感想受付窓口を一般用ホームページに開設しました。

ご意見・ご感想を <http://www.nsnet.gr.jp/opinion/top.html/> でお待ちしております。

第32回、第33回相互評価の実施

今回は、第32回の(株)神戸製鋼所高砂機器工場及び第33回の住友原子力工業(株)で行われたピアレビューの状況を紹介します。ピアレビューの概要及び報告書の全文はNSネットのホームページ(<http://www.nsnet.gr.jp/>)に掲載していますのでご覧ください。

平成15年6月17日から19日にかけて行われた第32回のピアレビューは、日本原燃(株)、核燃料サイクル開発機構、日本核燃料開発(株)の専門家及びNSネット事務局(計4名)が評価チームに参加しました。また、第33回のピアレビューは、北海道電力(株)、石川島播磨重工業(株)、日本原子力研究所の専門家及びNSネット事務局(計4名)が評価チームに参加し、組織・運営、教育・訓練、設計・製造(第33回は設計)、重要課題対応の分野について、原子力産業界のベストプラクティスに照らして評価を行いました。さらに、倫理関係、コミュニケーション等にも注意を払ってレビューしました。

第32回の評価の結果、(株)神戸製鋼所においては、品質保証活動、労働安全活動、QCサークル活動や倫理・コンプライアンス関係の活動に熱心に取り組んでいることが確認されました。

また、NSネットの会員外から、岡山大学名誉教授でプロセスマネジメント研究所代表の佐山隼敏氏にオブザーバー参加いただき、「ホスト(被評価組織)とレビューアがこういった生のデータに基づいて、お互いに意見交換するのは大変良いと思う。そういった意味でピアレビューは大変いい制度だと思った。」との講評をいただきました。



報告書の提出

牧野理事長(写真右)より(株)神戸製鋼所水越社長(写真左)へ

また、第33回の住友原子力工業(株)における相互評価の結果では、少人数であるが故の特色を生かし、トップからのメッセージが正確に情報伝達できるような開かれた職場環境となっており、全社員一丸となって安全文化の醸成に取り組んでいることが確認されました。

良好事例

- 正確な情報伝達が行える開かれた職場環境
- 行動規範や安全方針を記載したカード保持等による安全文化の周知徹底
- 「住友原子力協会報」の発行による安全情報の住友グループ各社への発信
- JCO臨界事故事例解析教育による新入社員の技術向上と原子力安全への意識向上
- ベンチマーク解析による設計検証用データベースの構築
- 解析・評価作業におけるチェックリスト活用によるヒューマンエラー防止への取り組み

主な改善提案

- 専門家リストの掲示による社内外に対する専門家の明示と知識向上意欲の啓発
- 設計マニュアル類の管理の明文化による管理の徹底
- 現在構築中の品質保証体系の施行・運用

主な良好事例

コンプライアンス体制の強化*

*: ホームページへの決意表明、内部通報者の保護制度、通報ルートの確立等

「知識・技能継承計画書」を用いた効果的な技能伝承

設計図書類の電図庫システム管理による最新情報の迅速提供

「ショットガンメールシステム」による重大クレーム等の迅速なトップへの連絡

安全体感学習の安全能力向上研修への取り込み

主な改善提案

壁新聞を読みやすいものに

教育訓練計画のよりきめ細かい策定

放射線安全管理における緊急時の連絡体制明示方法の改善



報告書の提出

牧野理事長(写真左)より住友原子力工業(株)高橋社長(写真右)へ

第52回安全キャラバンの実施

今回は第52回の安全キャラバンの様子について紹介します。安全キャラバンの詳しい内容については、NSネットのホームページをご覧ください。

平成15年8月28日に行われた第52回の安全キャラバンでは、四国電力(株)伊方発電所を訪問しました。安全講演会では、日本原子力発電(株)総合研修センターの鐘ヶ江直道氏を講師に迎え、「技術者倫理・自ら考える」と題して、ご講演いただきました。講演では、過去の事例紹介やそれを元に参加者全員で検討するとともに、

原子力のような高度技術に係わる会社・技術者は一般市民から一種の付託を受けている。それは、両者の間に無言の契約が成立していることであり、一般市民はその無言の契約の中で技術者に特別な責任・倫理観を求めている。

その倫理問題を容易に解決したり、苦勞なく解決するテクニックはなく、常に技術者自身で考え、自らの倫理観に基づき行動することが求められる。

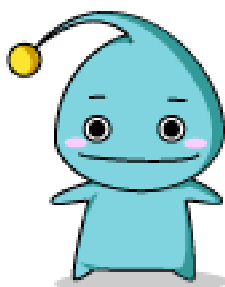
同時に、その個人は社会の中でも多くの役割を担っており、その中で特別な責務・個人倫理が求められる。それらは場合によって互いに相反する(矛盾する答からの選択を求められる)が、それを如何に乗り越えるかも、個人に課せられた課題である。技術者・個人が社会・会社での倫理問題にどう応えるかはその場その場で自らが考えねばならない。そのため、平日頃多くの事例から学び考えることが重要である。

などのお話がありました。



鐘ヶ江氏

お知らせ



10月以降、英語版NSネットメールニュース(NSnet News Letter)を発行予定です。本レターは3ヶ月に1度の発行で、内容は、NSネット活動報告のほか、原子力施設運転情報、原子力施設トラブル情報、プレス情報、NSネットの会員紹介等を予定しております。配信はもちろん無料です。読者登録は、NSmail@nsnet.gr.jp宛に「英語版メールニュース購読希望」の旨とお名前、配信先メールアドレスを記してご連絡下さい。併せて、日本語版NSネットメールニュースも引き続き読者を募集しています。読者登録は http://www.nsnet.gr.jp/index_mnews.html にて簡単に手続きできます。



NSネット (ニュークリアセーフティーネットワーク)
NSネット(ニュークリアセーフティーネットワーク)は、東海村のウラン加工施設における臨界事故を教訓として、原子力の安全文化の共有化・向上を図るために設立された相互交流ネットワーク組織です。

NSnet News No.21 2003年10月発行
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル437号室
TEL:03-5220-2666 FAX:03-5220-2665
インターネットでNSネットの詳しい活動内容をご紹介します。
<http://www.nsnet.gr.jp>

